

鹿児島大、学内シーズの実用化支援へ南九州先端医療開発センターを設置

(2019.01.16 08:00) [ipt](#)

久保田文

[シェア 0](#)

[ツイート](#)

[この記事印刷する](#)

鹿児島大学は、2019年1月15日、記者会見を開催し、医薬品や医療機器、再生医療等製品等のシーズを実用化まで切れ目なく研究開発するため、同大学院医歯学総合研究科の附属施設として、南九州先端医療開発センターを設置したと報告した。今後、癌に対するウイルス療法（腫瘍溶解性ウイルス）や新規の鎮痛薬、歯科領域の再生医療、リハビリを支援するロボット等、複数の学内シーズの研究開発を進める（[関連記事](#)）。

南九州先端医療開発センターは、（1）臨床、非臨床の開発研究に関する当局・規制対応の支援と医療開発に関連する倫理教育を支援する「レギュラトリーサイエンス部門」、（2）医療開発研究に必要な大型共用機器の配備・運用と、先端機器を使用する研究の技術教育を担う「先端機器実験部門」、（3）CMC、製剤製造・試験、GLP安全性試験等の支援を行う「非臨床研究部門」、（4）医療研究シーズに特化した産学連携を同大の産学・地域共創センターと協力して一体的に支援する「実用化部門」、（5）選定された学内シーズの開発研究を進める「先端医療開発プロジェクト部門」から構成。

2018年4月1日付で既に組織は発足しており、各部門長は、医歯学総合研究科の教授などが兼任。新たに同センターの業務に専従する特任准教授のリサーチアドミニストレーター（URA）のポストを設けた。また、現在改修を進めている医歯学総合研究科棟内に、2020年度にも施設が完成する。施設には、5部門のスタッフルームや大型共用機器等に加え、先端医療開発プロジェクト部門として学内から選定された複数のシーズのための研究スペースも完備する。

大学院医歯学総合研究科の佐野輝研究科長は、「学内シーズには、日本医療研究開発機構（AMED）の橋渡し研究など、競争的資金の採択を受けたものや、企業との共同研究が進展しているものもある。ただこれまで、学内の研究成果を実用化に速やかに結びつける十分な体制が整っていなかった」と南九州先端医療開発センターを設置した経緯を説明。同センター長を務める小戩健一郎教授も、「学内には優れたシーズが複数あると考えている。体系だって実用化を進める組織ができたことで、バイオベンチャーも生まれるなど、将来的な産業創出につなげられれば」と話していた。



佐野研究科長

[画像のクリックで拡大表示](#)



小戩教授

[画像のクリックで拡大表示](#)